

「SDGsの達成に向けた共創的研究開発プログラム」シナリオ創出フェーズ

プロジェクト名	研究代表者 所属・役職	概要	研究開発に参画する実施者および 協力する関与者の所属機関
人とシステムの協働による海岸清掃共創シナリオの構築	九州工業大学・情報工学研究院・知的システム工学研究系・社会ロボット具現化センター・副理事(地方大学・地域企業創生)・教授・センター長 林 英治	<p>【解決すべき社会課題・ボトルネック】 近年、海洋プラスチックによる海洋・海岸汚染は地球規模で広がり、海岸の景観のみならず、生態系にも甚大な被害をもたらしている。特に、海岸周辺、離島では少子高齢化による人員、人の手では収集することができない海ごみの問題は、慣れ親しんだ海洋・海岸を一変させる。このような状況が進む中、海岸・離島の地域ニーズやコミュニティをひとくりにすることは難しいのが現状である。漂着ごみの認識、収集、そして、運営を人と共にある AI テクノロジーを利用し、人とシステムが協働し、テクノロジーとコミュニティが織りなす人材育成とともに、海ごみ問題の新たな解決方法を産み出す共創モデルが求められている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・九州工業大学社会ロボット具現化センター ・九州工業大学大学院情報工学研究院知的システム工学研究系 ・九州大学大学院工学研究院環境社会部門 ・九州工業大学大学院生命体工学研究科人間知能システム工学専攻 ・北九州工業高等専門学校生産デザイン工学科 ・宗像市※ ・福岡県世界遺産室※ ・(一社)シーソング ・(一社)BC-ROBOP海岸工学会 ・宗像の環境を考える会 ・いであ(株) ・(株) ディープ・リッジ・テク <p>※自治体内での許可申請中で、掲載時期に間に合わない場合には削除します。</p>
	協働実施者 所属・役職	<p>【提案の概要(活用する技術シーズと解決するための手法含む)】 海ごみ問題に関する環境、工学、地域社会の融合を目指し BC-ROBOP 海岸工学会を設立し、AI、自律性、労務・人の代替として最重要な産業用ロボットの技術(省力化技術)や人材育成の開発シーズを利用した清掃労務の低減、人材育成がもたらす海洋・海岸環境維持や保全、人と技術が協働するコミュニティによる共創モデルと他地域への展開に向けたシナリオの礎を構築する。</p>	
	九州大学大学院 工学研究院環境 社会部門・准教授 清野 聡子	<p>【可能性試験の実施計画】 福岡県宗像市・北九州市・世界遺産の海岸地域における可能性試験では、自律運搬ロボット(UGV)を基幹とする海ごみ運搬とデータ処理をクラウド・エッジシステムにリンクし、地域の海岸清掃に関わる多様な社会環境・活動パターンに応じたコミュニティごとに利活用できるシステム構築を行う。そして、このシステムによって、地域社会の多様なステークホルダーによる未来共創を可能にする人的資源をつなぐコミュニティの形成(人とテクノロジーとの協働・定着)が実現するよう、協議・調整を進める。</p>	